

## 資料 8

### 第 1 回佐賀県立高等学校生徒減少期対策審議会 概要

日 時；平成 23 年 11 月 25 日（金） 15 時～16 時 50 分

場 所；マリトピア 吉祥

参加者；委員（代理を含む）（19 名）、事務局（11 名）

会 順；（1）開会

（2）審議会の設置

（3）会長及び副会長選出

（4）教育長挨拶

（5）諮問

（6）議事

・審議会の全体計画

・これまでの再編整備の経緯等

・佐賀県立高等学校再編整備第一次及び第二次実施計画の検証報告

・その他

（7）その他

（8）閉会

#### 〔会議の概要〕

#### 1 開会

名簿に従って、委員及び事務局紹介（資料 1-2）

あらかじめ配布された委嘱状により、委員委嘱がなされた。

#### 2 審議会の設置

「佐賀県立高等学校生徒減少期対策審議会設置要綱」の概要説明（資料 1-1）

#### 3 会長及び副会長の選出

委員から「瀬口委員を会長に、飯盛委員を副会長に」との推薦があり、承認された。

#### 4 教育長挨拶

○ 県立高等学校生徒減少期対策審議会の委員就任に対するお礼。

○ 県内の中学校を卒業する生徒数は、この 10 年間で約 25%も減少している。

この生徒減少は今後もさらに続いていく状況にあり、平成 29 年度までは、暫く緩やかな減少で推移し、その後、平成 30 年度以降、急激に減少することが見込まれている。

- 長期に亘っての生徒減少期を迎えるに当たり、県立高等学校について現在の配置のままに対応していけば、学校の規模が今以上に縮小し、学校の活力や教育効果などの面で、様々な課題が生じるのではないかと懸念される。
- 新しい時代を担う有為な人材を育成する観点から、長期的かつ全県的な視野に立って、生徒減少期に対応した県立高等学校の望ましい規模・配置や、県立高等学校の活性化について、審議をお願いしたい。

## 5 諮問（資料2）

## 6 議事

- 審議会の全体計画（資料3-1～3-4）  
事務局より説明。  
質疑応答
- これまでの再編整備の経緯等（資料4）  
事務局より説明。  
質疑応答
- 佐賀県立高等学校再編整備第一次及び第二次実施計画の検証報告（資料5）  
事務局より説明。  
質疑応答
- その他  
特になし

[主な質問、意見等]（○は委員、◆は事務局）

- 普通科高校における学区は、これまでの経緯を見ると拡大しているようだが、学区を撤廃するような見通しはあるのか。
- ◆ 学区をすべて撤廃するという方向で検討しているわけではないが、学校の配置の問題もあるので、通学区域の拡大も含めて御議論いただき、県の施策に反映させていきたい。
- 第二次再編実施計画の太良高校の全県枠の生徒は現在どのような状況にあるのか。
- ◆ 平成23年度の全県募集枠の入学生は30名だった。学級編制は30名を2学級に分け、教育相談も充実させてきめ細かに取り組んでいる。
- 第一次再編実施計画には「引き続き検討」としている計画が何件かあるが、この検討事項は今回の審議会で取り上げるのか。
- ◆ 杵島地区と伊万里地区の再編については、実施時期を延長している取扱いである。

次の減少期が平成30年、31年ごろになる見込みなので、実質的にはこの審議会で検討する対象となるだろう。

- 平成23年3月の武雄・杵島地区の中学校卒業見込者数が、平成17年2月の計画決定時の見込みを相当数上回る事となったのはなぜなのか。
- ◆ 武雄・杵島地区の生徒減の見込は確かにあったが、平成19年度に開校した武雄青陵中学校に、嬉野や伊万里など武雄・杵島地区以外の西部学区枠の中から生徒が流入したため、結果的には武雄・杵島地区に1学級相当の余裕ができて、この再編を延期したものである。
  
- 中学校を卒業した生徒のうち、県立高校と私立高校に進学する比率はどのくらいなのか。
- ◆ 公私協調の立場から、毎年、公立私立高等学校連絡協議会を設けて、公立と私立の募集定員の割合について協議している。本年度の協議で、平成24年度入学生までは、公立77.5%、私立22.5%という比率であるが、平成25年度からは、早稲田佐賀中学校の卒業者の影響により、公立76%、私立24%としたところである。
  
- 第一次実施計画で新高校となった高校の名称を教えてください。
- ◆ 東松浦高校と唐津北高校を再編統合した唐津青翔高校及び武雄高校と武雄青陵高校を再編統合した新設武雄高校である。
  
- 総合選択制について説明してほしい。
- ◆ 1つの学校に、農業科と商業科とか、農業科と家庭科といったような複数の学科を置いた場合に、生徒が他の学科に開設された科目を選択することができる制度のことである。生徒の科目選択の幅を広げることができる。
  
- 普通高校の在り方とか、専門高校の在り方とか、そういったことまで、ある程度見通しを立てた上で、規模というところに話を進めていく必要があると考える。資料にも「卒業後の進路など状況が大きく変化している学科もある。」とあるが、現在、高校生の卒業後の進路状況はどうなっているのか。
- ◆ 高校の大学科別の進路状況がわかる資料を次回用意する。  
簡単に説明すると、普通科高校でも就職が多い高校も数校あり、逆に専門高校、特に商業高校では進学者が半数近くになる学校もある。学科別にみると、工業高校では8割くらいが製造業等の高校で学んだ学科に関連する産業に進んでいる。
  
- 高校の中で私立と公立の割合というのは決められているという話だったが、公立の

中で普通高校と専門高校の割合は決まっているのか。

- ◆ 現在の時点で学科別の人数というものは決めていない。一次実施計画のときは普通科高校を増やして、進学率をあげようというのが根底にあり、学科構成比を決めていたが、社会の実態が変化し、専門高校に対するニーズも変わっている。そういう状況を踏まえ、この審議会の中で審議していただきたい。

## 7 その他

第2回、第3回審議会の日程調整について、事務局より連絡。

## 8 閉会